

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 すぴーる		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 21日 (月)		～ 2024年 11月 1日 (金)
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26名	(回答者数) 23名
○従業者評価実施期間	2024年 11月 11日 (月)		～ 2024年 11月 18日 (月)
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 11月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別・集団療育共に、保護者同室での親子療育である	療育中にその場でお子さんの様子についての解説や自宅での支援内容の提案を保護者に実施する 療育時間中であればいつでも保護者が職員と話をできるよう随時相談を受けられる体制を整えている 集団療育中に保護者同士の交流や意見交換ができるような場を設定している	今後も現在の支援を継続して実施していきけるよう職員配置の見直しなどを随時行うようにしていく
2	個別・集団療育共に、お子さんひとりひとりに合わせた支援プログラムを考えている	その日の療育内容について職員同士で意見を出し合い、次回の療育内容をどうするか意見交換を実施している 決まった支援プログラムに対しても打ち合わせの中でどのようにお子さんに関わるか、など目的を持ってプログラムを遂行できるように毎日の打ち合わせで確認を行い、各職員が意識的にお子さんに関わるように努めている	個別療育プログラムは複数の職員の意見を取り入れながら決める、集団療育での運動あそびやルール遊びは担当職員を持ち回り制にすることで支援内容のマンネリ化をふせぎ、各職員がお子さんひとりひとりに合わせた支援を考える機会を設けていく
3	働きやすい職場環境であること	1日の仕事のスケジュール(療育業務、記録・事務業務、翌日以降の療育準備時間等)が各職員ごとに決められているため、見通しを持って仕事ができ、日々の残業がない 複数職員で療育を行うため、一人で悩まず相談しながら支援内容を考え、実施することができる 療育経験者が多いため、いつでも相談できる環境にある	今後も職員の意見を聞きながら随時職場環境の見直しを実施していく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報発信力の弱さ	親子同伴での療育のため、必要な情報は室内掲示や一斉メールなどで対応している そのためHPでの情報発信はほとんどない状況であり、自己評価の結果がHPに載っていることを知らない保護者もいる	今後も必要な情報は室内掲示や一斉メールなどで対応していくが、新しい情報を室内掲示する際には保護者に声掛けを実施し、確実に情報が伝わるよう配慮していく
2	保護者交流の機会が少ない	集団療育に参加している保護者に関しては、療育時間中に保護者同士で交流する機会があるが、個別療育しか利用していない保護者は他の保護者と交流する機会がない	今後も集団療育に参加している保護者には、保護者同士の交流を継続して実施するとともに、個別療育のみの保護者に対しても、保護者からの希望があった場合には保護者同士の交流ができる場の設定を行えるよう努めていく